

Compton 散乱を用いた Bell の不等式の破れの検証 (仮)

京都大学理学部物理科学系 2025 年度課題研究 P1

市川周, 小林悠人, 下釜翔悟, 山田大樹

2026 年 2 月 3 日

abstract

ここに概要を書く.

contents

1 イントロダクション	2
2 理論	2
2.1 Bell の不等式の破れ	2
2.2 Klein-Nishina formula	2
3 実験原理	2
4 実験方法	2
5 解析	2
6 考察	2
7 謝辞	2

1 イントロダクション

本実験では, γ 線 Compton 散乱を用いて Bell の不等式の破れ [EPR] を検証する。

2 理論

2.1 Bell の不等式の破れ

2.1.1 量子力学と隠れた変数理論

A. Einstein, B. Podolsky, N. Rosen により提唱された EPR 相関は非局所的であり, 量子力学特有のものであることが知られている。しかし, 隠れた変数理論の導入により, 相関が局所的であると思われてきた。この 2 つの理論の是非を問うことができるのが, Bell の不等式である。

2.1.2 Bell の不等式の破れ

2.2 Klein-Nishina formula

3 実験原理

4 実験方法

5 解析

6 考察

7 謝辞

ありがとうございました！

参考文献

[EPR] Einstein-Podolsky-Rosen's' Paradox